



2025 年 10 月 10 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 東 京 衡 機
代表者名 代表取締役社長 小塚 英一郎
(コード番号 7719 東証スタンダード)
問合せ先 取締役管理担当 伊集院 功
(TEL. 050-3529-6502)

業績予想と実績値の差異に関するお知らせ

2025 年 4 月 14 日に公表いたしました 2026 年 2 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2026 年 2 月期第 2 四半期（中間期）連結業績予想と実績値の差異(2025 年 3 月 1 日～2025 年 8 月 31 日)

(単位：百万円、%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	2,230	70	68	58	円 銭 8 13
実績値 (B)	1,842	1	△13	△22	円 銭 △3 13
増減額 (B－A)	△387	△68	△81	△80	—
増減率 (%)	△17.4	△98.2	—	—	—
(ご参考) 前年同期実績 (2025 年 2 月期第 2 四半期 (中間期))	1,499	△40	△31	△41	円 銭 △5 79

2. 差異の理由

今回の差異は、2025 年 4 月 14 日に公表した「2025 年 2 月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」において開示した 2026 年 2 月期第 2 四半期（中間期）業績予想が、株式会社先端力学シミュレーション研究所（以下「ASTOM 社」という。）の買収前に策定された計画に基づいており、同社の連結影響を織り込んでいなかったことに起因するものです。

そのため、当初の予想値と実績値との間に乖離が生じたものであり、当社グループとしては、ASTOM 社連結初年度における季節変動・費用発生時期の差異等を踏まえ、通期では当初計画水準を確保できる見通しとしております。

2026 年 2 月期第 2 四半期（中間期）の連結業績につきましては、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも期初の予想を下回る結果となりました。

この主な要因としては、2025 年 3 月に当社グループ入りした ASTOM 社を連結に取り込んだことによるもので、同社の売上・利益が 1～3 月に集中する季節的な収益構造から、当中間連結会計期間では営業損失△65 百万円を計上したことにあります。

一方で、既存事業である試験機事業およびエンジニアリング事業は、前年同期比で増収・増

益を達成し、堅調に推移しております。特に、試験機事業では重工業・鉄鋼・自動車業界を中心にオーダーメイド製品の受注が拡大し、2025 年 4 月末時点の受注残高は 4,135 百万円と、既往ピークを更新いたしました。もっとも、旺盛な受注に伴い一部大型案件で納期調整が生じたことにより、当中間連結会計期間では一部売上計上が翌四半期以降へ繰り延べられた影響もございます。

なお、通期では前回公表予想を据え置いておりますが、業績予想の修正が必要と判断された場合は速やかに開示いたします。

以 上